

●祝福



こんにちは。工藤篤子です。

16日、無事に日本（札幌）に到着しました。

皆さまのお祈りを心から感謝いたします。

今回は、便の接続の関係で、アムステルダムで6時間待ち、日本に着いてからは、成田から羽田へ移動し、それから札幌に入ったので、30時間ほどかかりました。さすがに疲れましたが、飛行中は、みことばから深く語られるひとときを持つことができました。特に心に響いたのが、使徒行伝3章26節にある祝福でした。

祝福について思ったこと

（飛行機の中で黙想したことを書いたら、ニュースレターの記事のように長くなってしまいました。お時間のあるときに お読みください。）

使徒3：26「神は、まずそのしもべ（イエス・キリスト）を立てて、あなたがたにお使わしになりました。それは、この方があなた方を祝福して、ひとりひとりをその邪悪な生活から立ち返らせてくださるためなのです。」

「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。」

この第一ペテロ3：9は、人から侮辱を受けた時、傷つけられた時、しかと握りしめるようにしている聖句でした。けれど、私はその後続く「あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」をどれだけ理解していたのでしょうか。私がこの祝福を理解できるようになってきたのは、実はほんのここ数年なのです。それまでは必死でイエス様にしがみついていた、といった感じでした。

詩篇73篇が、私の17年間の信仰の歩みを如実に物語っています。この間も書きましたが、エペソ1：3「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。」のみことばに、ある日大きく目が開かれ、それから聖書に書いてある神の祝福を丹念に調べました。罪赦され、子とされ、み父との交わりに入れられ、永遠の命が与えられ、悪より守られ、平安が与えられ、希望が与えられ、成長させられ、聖徒とされ、神の力が与えられ、主の器とされ・・・数えだしたら きりが無いほどのあふれんばかりの祝福！ そうしたらとても幸せになって、感謝があふれ、自然と賛美が口をついて出るようになったのです。だから、パウロが「私の主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。」と書いたのだと、あの時初めて理解できたのでした。この間の日曜日、礼拝のメッセージも、「祝福」でした。マタイ5：3「心の貧しい者は幸いです。（祝福されています。）天の御国はその人のものだからです。」から、牧師は、伝道の第一歩は、私たちがまず神の祝福をわがものとし、人々が私たちに与えられた祝福の喜びを見ることから始まる、と語ったのを思い出しました。確かに、あの喜びの日から、伝道しようと意気込まなくても、主が自然に福音をの宣べ伝えるチャンスを与えてくださるようになりました。この祝福を、日本のたくさんの皆さんにお分かちしたいと祈りつつ、また思いを新たにさせられて飛行機を降りたのでした。

ところが、着陸後は何とハプニングの連続でした・・・

ハプニングその1

成田から羽田に移動するバスで、「工藤篤子様がお乗車でしたらお知らせください。」という呼び出し放送がかかったのです。連絡は、何とKLMからでした。私がスーツケースを取り忘れた、というのです。私は取り忘れたのではなくて、ハンブルグで札幌まで荷物をチェックインしたのです。その時、係りの人に、成田で荷物を取る必要はないのかと尋ねたのですが、彼は、「あなたは札幌に着くまで、スーツケースにいっさい触れる必要はありません。」ということだったので安心していただけました。けれども、国外からの荷物は税関審査を通る必要があったのでした。成田に戻る時間もなかったので、札幌に着いてから、パスポートのコピーと荷物受け取り願いとKLMへの委託書を成田の税関局長に書く手続きを取るようになりました。スーツケースが届くまで、最低4~5日はかかる見込みです。

ハプニングその2

家に着いてみると、翌日のデピューテーションで皆さんにお渡しする文書を事務局に宅急便で送ってくださるようお願いした荷物が届いていません。いろいろ調べた結果、私が事務局に間違えた住所を知らせてしまったのと、宅急便の宅配所に連絡する度に、電話を受け取った人が違って、それぞれが、最善を尽くして私に出来るだけ早く届けようとしてくださったがために、一日、荷物が行方不明になってしまったのです。必要な書類は、教会が二つ返事で印刷してくださいました。荷物は、デピューテーションの後に届きました。

ハプニングその3

到着した次の日、北栄教会にデピューテーションに出かける朝、シャンプーした髪を乾かそうと思ったら、ドライヤーがない！それで、頭をストーブに近づけて乾かしました。結果はひどいヘアスタイル、服も昨日のまま、でも格好は二の次とすぐに納得し、けっこう晴れ晴れとした気持ちで教会に出かけることができました。時差ボケで頭がボーッとして話しがまとまらなかったわりには、心は自由でした。そして心から主を誉めたたえる（賛美）ことができました。

これだけハプニングが続くと、これは逆に、神の祝福の前兆ではないか、と思いました。というよりは、ハプニング自体が祝福そのもので、「私がちゃんとしてあげるから安心しなさい。」という、み父のみこころではないかと思ったほどでした。そして主に信頼できる時こそ、祝福の時だと思いました。

♪♪

妹のこと

私の証しを聞いてくださったことのある方はご存じだと思いますが、7歳下に生まれた妹は、1歳の時彼女の上にテーブルが倒れかかり、その打撲が原因で、知的障害になりました。それから母はその妹のために一心の愛情と時間を注ぐようになり、母から受けた愛情を受けられなくなった私は、母と妹を憎むようになり、外では万引きをしたり、嘘をついたりするようになり、また妹をよくいじめました。スペインに留学してからイエス・キリストの救いにあずかり、イエス様の赦しと愛を知りました。それから、時間がかかりましたが、母と妹を赦せるようになり、帰国する度、出来るだけ妹に愛情を示そうと努力してきましたが、妹は私にいじめられた傷を深く負っていて、私の帰国をあまり喜んでくれませんでした。

た。ところが、前回の里帰りで、初めて、「今回はお姉ちゃんが家にいてくれて、なんだかうれしい。」と
言ってくれたのです。その時は私の方がもっと嬉しくなって涙がこぼれそうになりました。やっと和解が成
立したと思いました。今回も楽しみに待っていてくれていました。妹の場合は、そもそも私がいじめたのが
原因でしたが、こじれていた関係が回復することがこれほど素晴らしい喜びをもたらすものなら、父のもと
に戻った子供たちとの和解を神はどれほどまでに喜んでくださることだろうか、と思うのです。

♪♪

これからの予定のためにお祈り下さい

1. 19日から毎日、札幌でのコンサートの音合わせが始まります。
2. 2月24日、札幌希望の丘教会でデピュテーションと賛美の奉仕
3. 3月1日、札幌キタラホールでのリサイタル
4. 3月2日、札幌北広島教会賛美コンサート
5. 3月3日、ミニストリーズ北海道支援者の集い（札幌聖書教会）
6. 3月10日、基督聖教団札幌教会礼拝賛美
7. 3月12日?23日、聖地旅行（「ミッション・宣教の声」企画）

どうぞ神の祝福が皆様の上に大きくありますように。
感謝をこめて

♪♪

【事務局からのお知らせ】

1. 工藤篤子と行くイスラエル・ヨルダンへの12日間の旅

2002年3月12日（火）～23日（土）

団長： 黒田禎一郎牧師（「ミッション・宣教の声」主宰）

費用： 348,000円

訪問地：エルサレム市内・ガリラヤ湖・カペナウム・オリーブ山・カルメル山・
メギド・死海・ペトラ・アンマン・ピスガ等。

お問い合わせ：「ミッション・宣教の声」

Tel：06-6947-0220 Fax：06-6947-1260

2. 工藤篤子チャリティーコンサート「ソプラノ・リサイタル」

日時 4月8日（月） 午後7時開演

場所 大阪カテドラル聖マリア大聖堂カトリック玉造教会

内容 宗教歌曲のタベ（バッハ、ヘンデル、ロドリゴ、モンポウ、その他）

入場料 3千円（学生2千円）

※ チケットご購入の方は事務局までお申し込み下さい。